

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度	平成 24 年度
--------	----------

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	市有林造林保育事業			
担当課係名	農山村活性 課	林務 係	作成者	赤倉一男
総合計画での位置づけ	施策の大綱	特色ある資源を活用した産業創造のまち		総合計画のページ 66
	基本計画	森林整備と林業の振興		
	主要施策	林業生産活動の活発化		
予算費目	一般 会計	6 款 農林水産業費	2 項 林業費	2 目 林業振興費
事業期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input checked="" type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	森林法			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市有林の維持管理。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	市有林の保育事業等を適切に行い、森林のもつ多面的機能を持続的に発揮させる。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	委託業務により市有林の間伐等を行う。

【事務事業の推移】

		項 目		単位	23年度実績		24年度実績		
					23年度実績	24年度実績	23年度実績	24年度実績	
効果	活動指標	市有林面積	目標	ha	955	1,074			
			実績	ha	955	1,074			
			達成度	%	100.0%	100.0%			
	成果指標	搬出間伐面積	目標	ha	44.55	29.65			
			実績	ha	18.34	10.88			
			達成度	%	41.2%	36.7%			
投下コスト	項 目		総事業費		23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)			
	事業費（人件費を除く）(A)				6,009	5,541			
	人 件 費 (B)		—		1,696	1,657			
	職 員 数		—		0.20	0.20			
	職 員 平 均 人 件 費		—		8,479	8,286			
	(A) + (B) 投下コスト		—		7,705	7,198			
	財源内訳	国 庫 支 出 金				0	0		
		県 支 出 金				4,189	2,439		
		地 方 債				0	0		
		そ の 他				0	0		
		一 般 財 源				3,516	4,759		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		8,068	6,702			
	市民1人当たりのコスト(円)		—		259	245			

【事務事業の今までの成果】

仙北市森林経営計画作成により、補助事業を活用しながら計画的な管理を行っている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	国産材の活用に向けた補助事業の拡充が図られている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	森林のもつ多面的機能発揮への期待。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
C 2	A 現状のまま継続（実施）	森林のもつ多面的な機能を持続的に発揮させるためには、森林経営計画に基づく計画的な維持管理に向け、改善しながら継続実施するためC2判定とした。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

森林のもつ多面的な機能を持続的に発揮させるため、森林経営計画に基づく計画的な維持管理に努める。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
C 2	山地の保全と資産価値の増加のため、市造林地の秋田スギの保育並びに活用を図る必要があるが、運営方法や成果の向上手段を再検討し、継続実施と考えます。

